

# 診療所だより



令和3年2月号外

神崎市国民健康保険脊振診療所  
〒842-0201 神崎市脊振町広滝 462 番地  
電話 0952-59-2321  
診療所事務局（脊振支所）  
電話 0952-59-2111

## なぜ地下鉄の蛇口でコロナが広がったのか？

なぜ、蛇口というのか？

ウィキペディアによりますと、明治時代に公共の水飲み場の設置を考えた際に、デザインとして蛇を用いた（恐らく蛇の口から水が出るようなデザイン）ことに由来するそうです。

東京の地下鉄駅員のクラスターは洗面所の蛇口に唾液がついた事が原因との報道がありました。クラスターの発生は主に3密と言われましたから、驚きをもって伝えられたと思います。

飛沫や、飛沫由来のマイクロエアゾルによる感染以外の感染経路として、接触感染がありえることについては、ショッピングセンターのフードコート为例に以前の診療所だよりでもお伝えしました。



西村秀一先生（※）は日本臨床ウイルス学会（2020年10月3日）で、「接触感染における経路は、（中略）大きな割合を占めるのは鼻粘膜からの感染である。（中略、しかし）接触感染によるクラスターはありえない。」

「実際、ドアノブにウイルス液を吹き付け、乾燥した後に触れても、ごく微量のウイルスしか指には移らない。また、一般環境での生きたコロナウイルスの存在は証明されていません。」

と発表されました。ウイルス学の権威がこのような報告をしたので、私も最近では接触感染のリスクについては過小評価していました。そこに、地下鉄の駅員さんのクラスター報道です。

報道のキーワードを拾ってみますと、歯磨き、うがい、蛇口、当直室、唾液です。

うがい、歯磨きなどは、率直に言って、感染症対策として日頃から言われていることだと思います。

では、どのようにして感染が広がったのか？

ある駅員さんが感染した状態で当直をしました。朝起きて、洗面所で歯を磨いて、うがいをしました。うがいをペットはいたら、蛇口にコロナウイルスを含む水滴が飛び散ったことでしょうか。またコロナウイルスのついた手で、蛇口をひねって水道の水を止めたでしょう。普通、蛇口をタオルで拭いたりしませんから、その蛇口の水滴にはコロナウイルスが多量に残っているでしょう。その水滴が濁く前に、他の駅員さんが洗面所に来て、その蛇口をひねりコップに水を注いで、うがいして、そして……この連鎖ではないでしょうか。

重要なことは、乾燥していない水洗い場の水はコロナウイルスの巣窟になり得るということです。実はこれは感染症予防の基本で、洗面所を使った後に拭き上げることにこだわりを持つ人が多いのは、こういうことです。板前さんは、仕事の最後に完璧にキッチンを拭き上げて仕事を終わります。

乾燥する冬にウイルス感染が蔓延するから水に濡れていた方がいいのでは無いか、という発想もあるかもしれませんが、しかし、冬の乾燥が感染を後押しする理由は、寒いから人間の抵抗力が落ちることに加え、マイクロ飛沫を絡みとる空気中の水分が少ないことによります。空気が乾燥していれば乾燥しているほど、飛沫は飛びやすい。

コロナウイルスは（単）細胞なので水分がないと生きていけない。湿潤な鼻や喉の粘膜を好む。ウイルスはアルコールで脱水されるから死活する。だから水場を好む。

重要なことは

不特定多数の人が使用するもの、例えばボールペン、キーボード、ドアノブなど乾いた物から感染する可能性は低そうだが、濡れた物を触った後は、十分乾かしてアルコール消毒。手を洗ったら水分を十分に拭き取る、そのあとアルコールをすれば、完璧。濡れたままアルコール消毒してもアルコールの濃度が落ちて効果がなくなります。

私はよほど汚れていない限りは、手は洗わず、まっすぐアルコール消毒をしています。

“蛇の道は蛇”ですが、“ウイルスの道はヒトにも”を目指しましょう。

（※）仙台医療センター ウイルス疾患研究室長